

令和2年度 施政方針・予算・主要事業

本年度のまちづくりの方針や予算、主要事業についてお知らせします。

問い合わせ 施政方針＝秘書政策課 小林 ☎0052 / 予算・主要事業＝財政課 森田 ☎0054

動き出した大きなプロジェクトに 全力で取り組む

市議会2月定例会初日（2月25日）に、杉本市長が本年度のまちづくりの方針を述べました。一部を抜粋してお知らせします。

令和2年度は、第2次総合計画に込めた安全安心の推進や、若者が魅力を感じる住環境の実現による移住定住の促進などが、具体的な形となって動き出します。相良牧之原インターチェンジ北側の高台開発、スズキ相良工場の拡張、防災拠点・図書交流拠点の整備など、ビッグプロジェクトを積極的に進めていきます。

「富士山型ネットワーク構造」への転換

市都市計画マスタープランでは、相良・榛原地区の中心市街地を裾野とし、東名相良牧之原インターチェンジ、富士山静岡空港を山頂とする「富士山型ネットワーク構造」への転換を図っていくこととされています。高台開発プロジェクトは、

この「富士山型ネットワーク構造」を具現化する取り組みであり、既成市街地と内陸部をつなげ、まち全体を発展させるための重要な施策です。令和2年度は、公共施設に関する調査、測量、設計などへ補助金を交付し、令和3年3月の事業認可取得と土地区画整理組合の設立を目指していきます。

公民複合施設「ミルクキーウェイスクエア」の整備

未来若者プロジェクトでは、拠点となる公民複合施設「ミルクキーウェイスクエア」の整備などに注力します。民間部分については、本年中に先行オープンする予定であり、公共部分については、図書館基本計画に基づき、市民生活を支える知や文化の拠点として



カフェや物販、ボルダリング施設、レンタサイクルなどを備える「ミルクキーウェイスクエア」民間部分（整備中）

令和3年4月のオープンを目指します。

公共施設の適正配置

公共施設等総合管理計画に基づき、これまで施設の有効活用を基本に、整理統合や廃

止などを実施してきました。令和2年度は、全施設について個別施設計画を策定し、中長期にわたる公共施設の効率的な活用と、適正な維持更新を進めます。

学校再編については、計画策定委員会を立ち上げ、市民の皆さんの意見を伺いながら、これからの教育に必要な環境を検討します。

健康福祉と教育文化

2月に策定した「第2期牧之原市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、妊娠から出産、子育て期間の不安感や孤独感を和らげ、保護者や家族を切れ目なく支援して、子どもを生み育てやすい環境づくりを進めます。

少子高齢化の進行や高齢者世帯の増加などにより、多様なニーズに応じた体制強化が必要なことから、3カ所目の地域包括支援センターを、牧

之原地区に新設します。

榛原総合病院は、3月末に指定管理期間が満了となりますが、次の10年間も沖繩徳洲会を指定管理者として地域に必要な医療の提供をお願いしたところであり、引き続き、病床機能の充実を図ります。

ICTを効果的に活用した教育環境が求められている中、市においても国のGIGAスクール構想を受け、高速通信ネットワークや、小中学校への端末整備を予定しています。

産業経済

厳しい茶業情勢の中で、新たな経営形態への転換や取引先からのニーズに対応するため、国の産地パワーアップ事業を活用し、茶業関係者を支援します。また、静波原において、農地中間管理機構関連事業として、全国初の茶園基盤整備事業を進めています。

献上茶謹製事業については、市内4カ所の指定茶園においてJAによる栽培指導が行われており、記念式典に向け、関係機関と連携しながら準備を進めています。

これからの農業には、産地や業種を超えた連携が重要です。食と体験を新たな販路拡



前回(平成18年)の献上茶謹製事業での茶摘式典の様子

大に活用するなど、農業振興を図ります。

スズキ相良工場の拡張計画については、令和元年度の開発可能性基本調査に続き、基本設計を作成するための詳細調査を行います。

本年秋には、アジア初の本格的なウエーブプールが開業する予定です。今後は、地域の核としてウエーブプールを位置づけ、ANA総合研究所と締結した包括連携協定に基づき、地域団体とともに、来訪者の増加やにぎわいの創出につながるよう、沿岸部の活性化を図っていきます。

生活基盤と防災

静波1号幹線については、用地買収が完了し、現在県に



ウエーブプール（完成イメージ）

より工事が進められています。市においても、防災上の緊急避難路・物資輸送ルートの機能を確保するため、市内初となる道路の無電柱化を県とともに進めます。

道路ストック補修事業については、特に主要幹線である広域農道の市道女神4号線などの舗装修繕を計画的に進めます。

細江地区の浸水対策事業については、令和2年度から準備工事に着手し、約200mの改修を予定しています。

公共交通については、鬼女新田地域通学タクシーの運行範囲を拡大し、市営バス「鬼女菅山線」として運行を開始する予定です。

地頭方地区に建設を進めて



地頭方地区放射線防護施設

いる放射線防護施設は、原子力災害の緊急事態が発生した際に、迅速な長距離避難が困難な要配慮者とその介助者約260人が一時的に退避するための施設です。また、相良地区においても約500人の要配慮者が見込まれることから、相良総合センター「いーら」南側に総合的な防災拠点の整備を計画しています。

同報無線については、信号をデジタル化することで音声情報が明瞭になりましたが、災害時に必要な情報がより正確に伝わるよう、メールやライン、戸別受信機などを活用し、情報発信に努めます。

防潮堤については、地頭方、片浜、静波地区の区間で工事が進められ、令和2年度はさらに広い区間で整備が進めら

市政経営

住民自治による主体的で持続可能な地域づくりを推進するため、市が地区を支援する職員を配置する「地区の支援制度」を試行します。令和2年度はモデル地区を設け、段階的に機能の拡充を図ります。

シティブロモーションについては、市民が「まち」に誇りを感じ、その魅力を発信するためのツールとして、公式スローガンやロゴを積極的に活用し、市のイメージづくりを図ります。

厳しい社会情勢や財政状況の中ではありますが、第2次総合計画後期基本計画の完遂に向け、動き出した大きなプロジェクトに全力で取り組んでいきます。

施政方針の全文は、榛原・相良庁舎の情報公開コーナーや市のHPで確認してください。

